

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通/東町、西町ユニット)

事業所番号	2794100020		
法人名	関西物流株式会社		
事業所名	グループホームアセス 北梅田		
所在地	大阪市北区本庄西1-9-12 朝日プラザ2F		
自己評価作成日	令和5年2月15日	評価結果市町村受理日	令和5年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームアセスでは、運営理念とは別に、アセスの「ases」の頭文字をとって、Always(いつも) Smile(笑顔で) Enjoy(楽しい) Space(空間)という思いが込められています。その思いを持って、フロアではご入居者・職員共に笑顔で楽しく過ごせるよう取り組んでおります。アセスは1フロアに2ユニットがある為、2ユニット分の広い空間を共有でき、その広い空間を使って豆まきや・運動会など季節に合わせて、施設内で行事が行われています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主の関西物流株式会社は各種介護事業を展開しているが、一つにグループホームアセス北梅田がある。事業所理念と介護理念がありアセスの名前の由来が「いつも・笑顔・楽しい・空間」の英文字の頭文字を取ってアセスと名付けた。理念に思いを込めて運営している。10階建てマンションの2階に2ユニットが広がリリビングを挟んで両側に居室があり廊下を含めて広々とした共用空間を作っている。規制や制約の中職員は、地域の周辺散歩や室内でのレクリエーションなど楽しみを充実させて毎日楽しく過ごせるよう支援している。家族からのアンケート調査から職員が認知症について理解があり、いつも明るく笑顔でキビキビ動いて雰囲気良く清潔感があると答えている。 今日、調査の日も大きな声で歌を歌い、フロワーいっぱい声が広がり明るく元気な施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】			

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アセス北梅田の運営理念を明記しヘルパーステーション・入口(エレベーターホール横)に掲げ、日常の業務を通じて方針を職員間で共有し行動するよう指導している。介護理念として、「いつも・笑顔で・明るい・空間」であるよう環境作りを行っている。	事業所理念「情熱と愛情をもてる職業・人を癒し、人を活かし、人と繋がる職業・地域社会に貢献できる職業であることを誇りにします」と、介護理念の「いつも・笑顔で・明るい・空間」を掲げ、入居時に利用者や家族に説明し、ヘルパーステーション入口に掲示している。日常業務を通して職員間で共有してケアの向上に繋げている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、地域のイベント事には参加したり、近隣の保育園とも交流を図っていた。コロナ禍の為、この何年かは交流や参加できていない。(地域のイベントは開催されていない。)	自治会に加入して地域とのつきあいを続けてきたが、コロナ禍のためイベントや保育園との交流が出来ていない。しかし近隣の散歩を少しずつ広げ、1月に介護タクシーを使って近くの神社へ初詣に出掛けることができた。近隣から入居希望の電話を受けたり、役所にパンフレットを置くなど地域との交流を深めたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	北区のにこりんくの会に参加し、意見交換やお手伝いをしていたが開催されていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防の為、運営推進会議は日常の取り組みやアセスの現状を書面で報告をし、何かご意見があればご連絡頂けるようお願いしている。	コロナ禍のため会議は、年6回書面開催となっている。管理者とマネジャーが事業所の現状報告と活動状況・予定行事の報告を行い、議事録を会議メンバーと家族に送付している。意見や要望があれば連絡をお願いしている。	書面開催となり、事業所の現状報告や活動報告をしているが、事故やヒヤリハットの報告も行い、家族や構成メンバーに開催前、要望や意見の収集を取りいれ、より充実した議事録作成に取り組んでほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	北区の福祉課や生活支援課にケアマネジャーが連絡し、生活保護受給者関連の相談や申請代行を行っている。GH連絡会や運営推進会議を通じて相談・助言を頂いていたが、現在は会議が開催されていない。	区の福祉課や生活支援課の窓口や電話で事業所の現状を報告し相談や申請代行をしている。コロナ禍でグループホーム連絡会が開催されていなかったが3月から開催予定の連絡があり地域との交流を持ち協力関係を期待している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に対し、社内研修で身体拘束について理解を深め意識向上を図っている。身体拘束について、ご家族とも話し合いの場を設け身体拘束をせず、ご本人の安全を一緒に考えている。	「身体拘束廃止に関する指針」を作成し年2回の研修を実施している。「ちょっと待って」などスピーチロックにならないよう研修を重ねて職員の繋がりを深めながら利用者本人の安全を守るため身体拘束をしないケアに取り組んでいる。1階から2階にあがるエレベーターは安全上ロックをしているが同じフロアは自由に行き来できる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に対し「虐待防止」について社内研修を行い、知識を深め、不適切なケアのないよう環境作りをしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設でも後見人制度を利用している方がおられます。権利擁護については何に1回社内研修を実施し、知識を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を行い、ご家族に理解して頂ける様努めている。改定などがある際には、事前に連絡し了承を得ている。ケアプラン作成時等に不安やご意見を頂きそれに対し寄り添い説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱は常時設置を行ない、施設に対して直接いえない場合に利用して頂くようご家族に説明している。又、直接伺うことができる場合は職員及び会社の上層部に報告する。	家族の面会時や電話で意見や要望を聞く体制を取り、玄関先にご意見箱も設置し意見や要望をきいている。毎月のアセス便りに写真を載せ利用者の様子を家族に伝え喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回社内会議を開き職員からの見は代表者に届く様努めている。 カンファレンス等で職員の意見・提案を聞く機会を設けている。年に2回面談の場を設け職員の意見を聞いている。	月に1回、社内会議を開き、意見・提案を聞く機会がある。年2回の自己評価があり、目標を立て話し合いの場を設けている。食事・行事創作・台所洗濯などの担当を設置して運営に関わり反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の労働意欲の向上の為、年に2回自己評価を実施し目標を持って取組めるよう努めている。 年に1回の昇給制度 有給休暇取得の自由 サービス残業はさせない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に社内研修を行っている。 入社して3ヶ月は試用期間を設け指導者をつける。 経験に応じて、社外の研修も受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区GH連絡会を通じて他施設との交流研修会などに参加していたが、コロナ渦の為、現在は出来ていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークの際にご本人・ご家族と話しをし、情報を十分に聞き取り、困りごとに対しどのようにケアしていくか事前に職員に周知し、ご入居されてから安心できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から今までの生活の様子を詳しく聞き、また、ご家族の要望も聞き、ご家族が安心できるように努めている。面会に来られて際は日頃の様子を伝えるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に抱えていた家族の悩みや要望を面談時に聞き取り、出来るだけ早く施設の生活や環境に慣れて頂く様、職員全員が支援方法を統一して混乱されない様、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者も職員も日々の生活を共に過ごし、出来る事はして頂き、出来ない事はお手伝いし、共に支え合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・外出等、家族と共に過ごす機会を持って頂く為のお声かけを常にしている。面会に来られた際に日頃の様子を伝え、本人と家族と一緒に話をし関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人が来訪されるのは構わない事はお伝えしている。現在コロナ感染対策の為面会を一時的に中止している。 また、年賀状を出す支援も行ない、馴染みの関係を大切にしている。	入居時に聞いた利用者の様子や馴染みの人との関係を職員間で共有している。携帯電話を保持している利用者が3名おり電話のかけ方や年賀状を出す支援をしている。毎年、イベントとして家族に年賀状を出し喜ばれている。5～6月にかけて社協からボランティアを迎え楽器演奏や日本舞踊・フラワーアレンジメントなどの予定があり馴染みの人との関係を途切れないよう努めたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士が協力しながら生活ができるような環境作り・関わりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居理由により、継続した関係は難しい場合の方が多いが、出来るだけ気軽に訪ねて下さる事が出来る関係であり続けたいと考え、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご本人・ご家族の意向を聞きそれに沿った生活ができるよう努めている。入居後も日々の会話の中で聞き取り・ご家族が面会に来られた際に話しその都度意見や・意向を聞き取っている。	入居時の面談の時、本人・家族の意向を聞き取り今までと同じような生活が送れるよう支援している。食べたい物があれば要望に応じている。利用者の状態の変化を確認しながらできる限り沿うように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前の生活の様子などはアセスメントの段階でご本人・ご家族から話を聞き、職員全員が共有して支援できるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々得る事が出来た情報は、申し送り・記録を通じて職員全員が周知し現状を把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回チームカンファレンスを行ない、家族の希望・意見も取り込み、その都度現状にあった支援が出来る様、介護計画を作成している。 介護計画に対し、月1回モニタリングを行ない、3ヶ月毎、必要に応じて見直しを行っている。	月1回チームカンファレンスを行い家族の意見も取り入れて介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い現状にあった計画を作成している。担当者話し合い3ヶ月ごとに計画を見直している。状況変化があれば随時見直しを行い現状にあった計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個々の介護日誌に記入を行ない、特に気づいた事、注意すべき事は送りノートに記入し、日々の支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに合わせて取り入れるものは早急に対応する様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	色々な地域資源を活かし、楽しい生活が送れる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医はもちろん、個々のかかりつけ医とも関係を築いている。 また、夜間や緊急時にはオンコール体制でかかりつけ医との連携も図っている。全ての利用者が往診を月2回受けている。	利用者の殆どが、協力医の訪問診療を受けている。1名のみ従来のかかりつけ医に家族付き添いで受診している。歯科訪問診療は半数以上の利用者が希望され医師の治療・歯科衛生士による口腔ケアを受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の契約をしており、その都度情報共有し、サービス担当者会議にも出席して頂き連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時には定期的に地域連携担当者や連携を取り、担当医師・看護師・ご家族様と情報交換を行っている。医療機関の協力も得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に対する指針のご説明をしている。GHで生活する中で状態が変化するたびに家族・医師と話し合う場を設けご本人・ご家族の意向に沿った支援ができるよう主治医と連携している。	入居時に「重度化した場合の対応にかかわる指針」を用いて説明して、同意を得ている。状況・状態変化時は主治医から家族に説明し看取りケアを行う場合は再度、同意書を得て管理者が事業所で出来ること出来ないことを家族に説明している。看取り指針に基づき状態に応じ、必要時は家族の要望で個別に訪問看護師を契約する場合がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時に備えて、職員全員が慌てない様にマニュアル作成、職員間でのコミュニケーションはしっかりと取り、常々心がけている。緊急時の対応について、社内研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーの設置、非常口の確保・確認、年2回の消防(消火)避難訓練・年に1回の水害避難訓練を行っている。災害時に対し、食料や水の備蓄もしている。	年2回の消防避難訓練と年2回の水害避難訓練を行っている(計4回)利用者も可能な人は職員と一緒に経路などをたどっている。災害対応マニュアル・連絡網チャート式で作成しスタッフルームの書類棚の定位置に置き、備蓄はチェックリストで担当職員が定期点検整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活の場である事を留意した上で、言葉かけや対応に気を配った支援に努めている。また、研修で接遇や人権について学び、意識の維持・向上に努めている。	利用者への声かけや関わりを大切に、年間計画の中で接遇・プライバシー保護等の研修を行い、職員同士でも現任教育を行っている。排泄・入浴介助・居室の出入時などプライバシーや羞恥心に配慮して声掛け支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	GHで自立した生活が送れるよう本人の意見や訴えを尊重し日頃から自己決定できるよう関わりを持っている。認知症が進行し希望の表出が難しくなっているご入居者に対しては、ご家族に話しを聞き支援できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中で行事や・アクティビティー等日常を活動的に過ごせるよう取り組んでいるが強制は行わずその人のペースに合わせ穏やかな生活が送れるよう取り組んでいる。食事・睡眠に対しても時間をずらしたり工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧されていたり、整髪料を付けていたり昔からされており習慣ついていることは変えることなく出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には食事の準備・お膳拭き・洗い物などを職員と一緒にしている。食事担当者が聞き取りしメニュー作りをしている。	朝夕の食事は利用者の意見を聴き、鰻・肉類・そうめんなど要望に応じて、献立を食事担当職員が作成し、材料の買い出し調理を行っている。昼食は業者の弁当を器に移し、利用者は食器洗いやジャガイモの皮むき等出来る事を手伝っている。季節に応じ行事食ちらし寿司、誕生日はケーキで祝い、くら寿司などを注文し喜ばれている。おやつレクリエーションも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量はその都度確認・記録している。食事のメニューもバランスを考え組んでいる。また、持病により量の加減は行っている。(糖分や水分量など)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方には声かけ・見守り、出来ない方にはその都度職員が口腔ケアを介助を行っている。歯科医と連携し、口腔ケア方法等指導もして頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の記録を残し、一人ひとりの排泄パターンに合わせて声かけ・誘導を行っている。	排泄の自立布パンツ者は3人、リハビリパンツとパット併用の利用者が殆どだがベッド上でパット交換もある。居室にポータブルトイレ使用は2~3人で、夜間2時間毎巡回し、個別に対応しトイレ誘導、安眠を重視して排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をつけ、日中こまめに水分摂取の声かけ、食物繊維の食べ物の摂取、運動、口腔体操を行い、よく噛んで食べていただくよう声かけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回を基本として、声かけ・誘導を行いながら、個浴でゆったりと入浴していただき、職員と会話をしたり、楽しく入浴していただいている。 拒否の強い方は日を変えたり、シャワー浴にしたり工夫している。	基本的に週2回と汚染時にその都度シャワーを行い、週3回利用の人は3名ほどで重度者は2人介助でシャワーキャリーを使って浴槽に浸かっている。状況・状態に応じドライシャンプーと清拭を行っている。歌を歌ったり1対1で介助しながら日常会話を楽しんでいる。冬至にゆず湯で季節を感じてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り規則正しい生活リズムを作れるよう関わっているが、個人によって疲れやすかったり、夜間寝れなかったりするのでその人に合わせ、日中お昼寝したり、夜間フロアでお茶を飲んだり状況に合わせて柔軟に関わっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師・医師・看護師と連携し、常に確認を怠らないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活の中で、お手伝いなど出来る事はして頂き、その人にあった作業を提供し、得意な事を楽しみながら出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は買い物や地域の行事に参加し外出していたがコロナ感染対策の為外出機会が減っている。出来る限りで気分転換できるよう施設玄関まで行き外の空気に触れる様支援している。	1月中旬に豊崎神社に初詣・春は花見行事であるが感染状況を見ながらドライブで車窓見学か現地に行くか考慮中である。事業所周辺の散歩は天候を見ながら住宅前のプランターや花屋さんを眺めながらの散歩、状況に応じ住宅前のガーデニングを眺めて歩き外気浴・日光浴している。以前は郵便物をポストに入れに行ったり、喫茶店でお茶や食事を一緒に楽しんでいた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人より問いがあれば「ご家族から預かっています」と伝え、対応している。また、希望があれば一緒に買い物へ行き、購入を行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば自分で掛けられるように支援し、また、職員が代わりに掛けてお渡しする事もある。ご家族からの電話も取り次いでいる。年賀状のやり取りなどもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の照明・空調には常に気を配っている。また、廊下やフロアなど季節感を感じていただく為に写真や創作物等を掲示している。	両サイドに居室があり真ん中に広く明るいリビングルームと事務室・厨房の設備がある。感染予防対策で換気・清掃・手指アルコール消毒とテーブル・手すり・車いす・ドアノブなど拭き取り消毒している。お正月写真・園児から敬老お祝いメッセージの掲示や、ひな人形づくり行事作品や季節の花・切り絵・貼り絵など季節感が感じられる。節句のひな人形が飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは自由に行き来する事ができ、自由に過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のレイアウトはご家族様・ご本人に任せており、馴染みのあるものや、思い出のある物を自由に持ち運んでいただいている。	各居室は、町名・番地・表札があり自分の家を認識出来るよう工夫がある。自宅から使い慣れた馴染みのタンスや丸テーブル・椅子・ソファ・仏壇・家族写真・化粧品など持参し、居心地の良い雰囲気配置されている101歳利用者の表彰状が息子さん購入の素敵な額に入れて飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人で出来ることは頑張っている。出過ぎた介護は行わず、安全を考慮しつつ見守っている。		